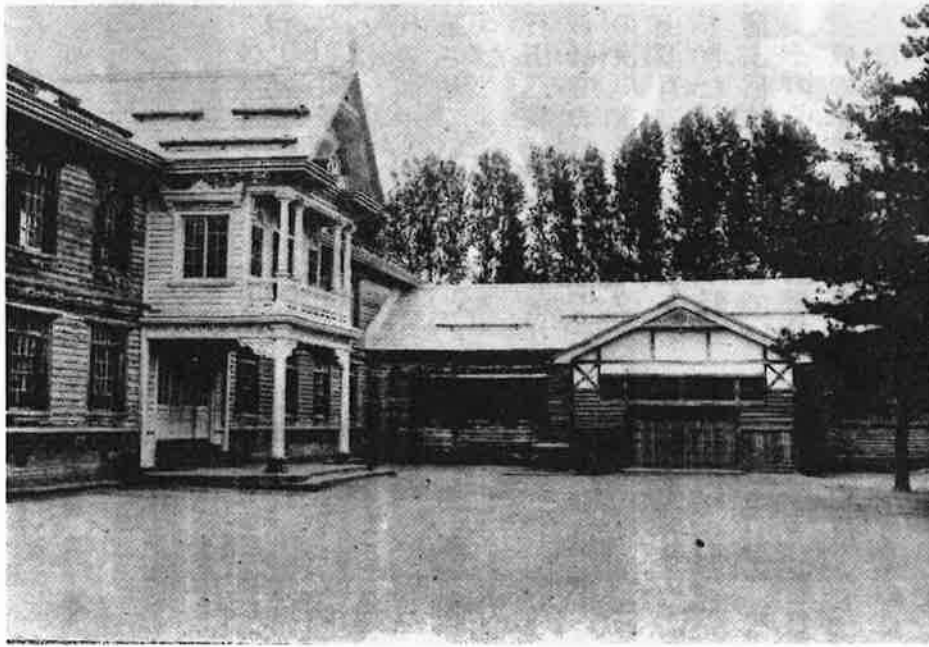


戦前の大きな市には、政 会場所に使われたのが小学  
治家や市民の集会場所とし 校だった。小学校は村の行  
て公会堂があった。しかし、事に使われるなど、大人た  
当時県内の多くは村であり、ちにとつても、役場と並び  
人口と財政規模の観点から 村民が集まる地域の大切な  
公会堂を建てるのは難し 拠点だったのである。  
かった。このため村民の集 町の規模になると、大鰐



板柳尋常高等小学校。この数年後に公会堂兼役場庁舎となる。  
大正期・青森県史編さん資料

町のように公会堂を有する 938(昭和13)年に開校  
事例もあった。しかし板 した板柳町立実科高等女学  
柳町には公会堂がなかつ 校(現在の青森県立板柳高  
た。そこで町では1927 等学校)が、敗戦後の19  
(昭和2)年、板柳尋常高 48(昭和23)年から、1  
等小学校が移転新築される 953(昭和28)年まで使  
のに伴い、残された校舎を 用していた。元々学校の校  
町の公会堂に改築。一部を 舎だったので、戦後の物資  
町役場として使用すること 不足もあり、違和感なく使  
になった。翌年9月に町役 われたと思う。  
場、10月には公会堂が完成 役場が同居していた公会  
し、落成式が行われた。場 堂では町議会も開催され  
た。現在の駅舎に新築され  
たのは1934(昭和9)  
年1月である。これ以降、  
部分的な改築改良はあった  
が、基本的に駅舎本体は当  
時のものである。今年で築  
80年を越える建築物だ。  
自動車社会となった現在、  
板柳駅は朝晩に高校生が通  
学する以外は概して静かだ  
ある。五能線は板柳町の発  
展に大きく寄与し、駅舎は  
町の発展を見守ってきた。  
消えてしまった旧役場庁舎  
とは異なり、駅舎は現役だ。  
現役で立派に活躍し続ける  
人間が尊敬されるように、  
現役であり続けている板柳  
駅は、町の立派な歴史的遺  
産である。

## 板柳町民に親しまれた 役場と駅

中園 裕

(県民生活文化課  
県史編さんグループ主幹)

所は現在の板柳町役場のあ  
る場所だった。

けられなかった。このため  
役場新築計画が浮上し、町  
民に親しまれた建物は19  
74(昭和49)年までに解  
体され、現在の役場庁舎に  
替わった。

公会堂兼役場となった校  
舎は、1899(明治32)  
年に建設されたものだった。  
すでに30年近く経過してい  
たが、2階にベランダのつ  
いた洋館風の建物は、公会  
堂に相應しいと判断された  
のだろう。

小学校時代から町民の集  
会場所であり、役場や公会  
堂として議会や町民に活用  
され、高校の校舎にも代用  
された建物を、町民は大い  
に惜しんだ。このため町で

実際に、この建物は戦後  
も長く使用され続けた。1

に惜しんだ。このため町で